

令和5年度 第3回相生小学校運営協議会 会議録（要点記録）

（敬称省略）

- 1 開催日時 令和5年10月31日（火） 14時00分から15時50分
- 2 開催場所 相生小学校 多目的室
- 3 出席委員 小杉 思主世、大谷 一雄、水谷 加寿代、原 隆之、中川 有香、
森田 賢児、鈴木 麻衣子（学校支援コーディネーター兼務）
- 4 欠席委員 長澤 秀幸、廣野 篤男、伊藤 大輔
- 5 オブザーバー 村松 拓也（東部協働センター）
- 6 学校関係 鈴木 晶子（校長）、鈴木 滋雄（教頭）、鈴木 由香（主幹教諭）、
村上 友香（CS担当教諭）、伊藤 龍彦（CSディレクター）
- 7 教育委員会 鈴木 陽子（教育総務課）
- 8 傍聴者 なし
- 9 会議録作成者 CSディレクター 伊藤 龍彦

10 議長の選出

司会から、議長の選出について意見を求めたところ、鈴木委員が本日の議事を務めることを申し出、全員異議なくこれを承認した。

11 協議事項

- (1) 学び合い、認め合い、鍛え合いの視点から前期学校評価の結果と今後の取り組み
- (2) キャリア教育の推進状況
- (3) 地域人材活用についての現状報告

12 会議記録

司会から、委員総数10人のうち6人の出席があり、過半数を超えているため、会議が成立している旨の報告があった。

(1) 学び合い、認め合い、鍛え合いの視点から前期学校評価の結果と今後の取り組み

主幹教諭より別紙資料に基づき、前期学校評価の結果と今後の取り組みについて、説明があり、委員からは、以下の発言があった。

- ・学習ボランティアの支援に参加し、評価され大変うれしく思っている。（鈴木委員）
- ・地域に帰っても子供たちと話ができるようになり、私自身、変わってきたと思う。最近、学校に長期間関わり、子供たちの行動をつぶさに観察することができた。感じていることは、朝の見守りボランティアは、多いが、下校時のボランティアが増えてくると良い。（会長）
- ・認め合いの「いつでもだれに対しても挨拶をするすることができている。」という部分で、教職員が59%と低調ですが、なぜですか？もう一つは、給食の残食について、コロナ禍の対策として黙食をしているのか？（森田委員）
- ・あいさつについて、教職員の数値が低い理由は、子供たちへの指導不足と感じている職員が多くいた影響だと思う。その後の話し合いで、夏休み明けには“あいさつキャンペーン”を行うということにつながり、効果を上げてきている。また、残食の件は、ここ2～3年、残食調査を実施していなかった。今年6月から、再スタートした。7月には、暑さの影響もあり、牛乳・パン・ご飯・おかずなどに10%残るものもあった。コロナ禍では、食べる時間

を短くし、一斉に返却させたこともあり、その影響がでていると感じた。10月現在は、よく食べている。グループで食べているクラスもあるが、インフルやコロナが流行している時は、前向きである。(校長)

- ・食育の意義は、子供・先生と一緒に食べることで、心身の健康につながる。通常の形に戻してもいいのではないか。(森田委員)
- ・認め合い部の自他の良さを知り、認め合い高め合う子については、自己肯定感を育てることが大切だ。ハードルを乗り越える取り組みは重要で、是非、仕掛けて欲しいし、学校の取り組みに共感する。(森田委員)
- ・1, 2年の授業を参観して、姿勢がいいなと思った。コロナ禍で体力が下がっていると思っていたが、相生の子は運動を頑張っているからではないか。(大谷委員)
- ・今年度は、ハロスポに力を入れている。体力調査では、握力と立ち幅跳び以外は、全国平均を上回っている。(校長)
- ・認め合い部で、自己肯定感を育てにくい環境ではあるものの、完璧を求めず、バランス良く育つことが、大切だと思う。(大谷委員)
- ・教職員の休職が増えている。ボランティア活動が、働き方改革で、教員の負担を軽減できればと思う。勤めやすい環境、応援できる環境づくりが大切だと思う。(大谷委員)
- ・ある保護者は、自分の子以外のボランティア活動に参加して、先生たちが、こんなにもやってくれたことが分かった。自分は参加して、子供たちのためにやっていきたいと思ったと話された。また、先生の大変さを痛感したとも話されていた。(校長)
- ・最近、褒めて頂いたら、素直に喜ぼうと思っている。褒めてくれるボランティアに、子供たちは、大変喜んでいて。単純なことだが、大切だと思う。(鈴木委員)
- ・ボランティア活動をして、あなたにもできることがあるとPRできたらと思う。
- ・給食の取り方で、時間が足りないということをPTAの方にも伝えたい。(会長)
- ・ボランティアは、継続して、口コミで行っていききたい。一番効果的だと思う。(鈴木委員)
- ・先生たちに、もっとボランティアの要望を出して欲しい。また、さくら連絡網での連絡は、非常に助かっており、有り難い。さくら連絡網は、みんなが見れる一番よい連絡方法だった。(会長)

(2) キャリア教育の推進状況

校長から別紙資料に基づき、各学年のキャリア教育の推進状況について、説明があり、委員からは、以下の発言があった。

- ・「家で、子供たちは、自分で計画を立てていますか？」という問いかけに対して、学校は、自主的に計画を立てて行うことを重視している。ちょっと逃げる子もいるので、保護者としては、ある程度決めてもらっても…。先生の言われることは分かるが、必要最低限の宿題を出して欲しい。(中川委員)
- ・ハロスポでは、鉄棒を担当したが、子供の頑張りに、すごいねと声をかけると、すごく喜んでいて。教員1人で、30人は大変だと思った。お手伝いすることで、喜んでもらえるなら、うれしい。(中川委員)
- ・放課後にヘルメットの着用について、昔はよく、人形をはね飛ばしたりする交通指導があっ

た。子供たちにも、体験させないと伝わらないのではないか。挨拶については、私自身、子供たちとのふれ合いの場が、最近増えてきて、交流をもつことができた。 (原委員)

- ・ 体育の研究会を参観して、みんなで考え、声をかけ合い、励まし合って、やっていた。ある子が、「悪いことばかりではないよ。いいこともたくさんあったよ。」と声かけていた。みんなで声を掛け合い、励まし合う姿を見ることができた。 (水谷委員)

(3) 地域人材活用についての現状報告

学校支援コーディネーターより、資料に基づいて、報告があり、各委員から以下のような発言があった。

- ・ 小学生から、高校生までを対象に、協働センターでチャイルドフェスタがあり、約800人の子供たちが、ふれ合いをしたと聞いている。小、中、高をつなぐものがあると感じた (会長)
- ・ 東部中学のボランティア、西遠女学園、修学舎の高校生ボランティアも参加し、大盛況だった。 (村松オブザーバー)
- ・ 例年12月に書き初めの講座を、協働センターで開催している。夏休みのイベントと冬休みの書き初めは大変人気がある。いろんな年代が、友好できる場があるといい。 (大谷委員)
- ・ 昨年は、静岡文化芸術大学の先生に、英語講座を開催して頂き、好評だった。 (村松オブザーバー)
- ・ 囲碁の講座ボランティアも大変良かった。 (校長)

その他の報告事項

司会より次回令和5年度第4回学校運営協議会は、令和6年2月27日(火曜日)10:30~12:00に多目的室で開催する旨の報告があった。